

全教職員で取り組む学校評価システム

札幌市立百合が原小学校

I はじめに

学校改善に結び付いた学校評価

1 本校における学校評価のねらい

学校教育目標の達成に向けて、学校経営の方針と重点に沿って日常取り組んできた教育活動の成果や課題を教師、児童、保護者・学校関係者、地域の声を生かして、明らかにする。そのことを通して共通理解を深めて学校改善を図り、百合が原の教育をより確かなものとするを学校評価のねらいとした。

2 昨年度の学校評価を基にした改善点

本校では、昨年度末の学校評価により、問題点が洗い出され、それらの改善策を新年度の教育活動に盛り込んだ。例えば、詳細な領域のデータが出る学力テストの導入、TT協力教授の指導の重点化、総合的な学習の時間のカリキュラムの改善、生活指導の重点項目の改善、異学年交流のねらいの明確化、英語活動の充実などである。また、保護者の学校に対する関心をより一層高めるために、学校説明会を日曜参観日に実施し、学校への協力意識、参画意識がもてるように説明を分かりやすく行った。さらに、評価項目の設問を工夫した。教職員評価では、取組の振り返りと改善策を明確にするように、保護者アンケートは、家庭での生活の実態がつかめるように、児童アンケートは、児童が答えやすいように設問を工夫した。学校関係者評価委員の構成については客観的視点をもてるメンバーの見直しが必要であったため、今年度、新たに地域の青少年育成会会長を加えた。

II 本校の学校評価システム

学校評価システム

1 自己評価と評価委員会

校長の学校経営の方針と重点をもとに、評価委員会で評価内容や評価項目を設定している。評価委員会は、校長、教頭、教務主任、総務、各学年の主任、各校務分掌の部長で構成されている。評価の年間計画は教務主任（評価委員長）が中心となって作成し、これに基づき実施方法や会議の持ち方を検討している。評価委員は各分掌、各学年の窓口となり連絡や調整を行い、評価活動を円滑に実施する役割を担っている。

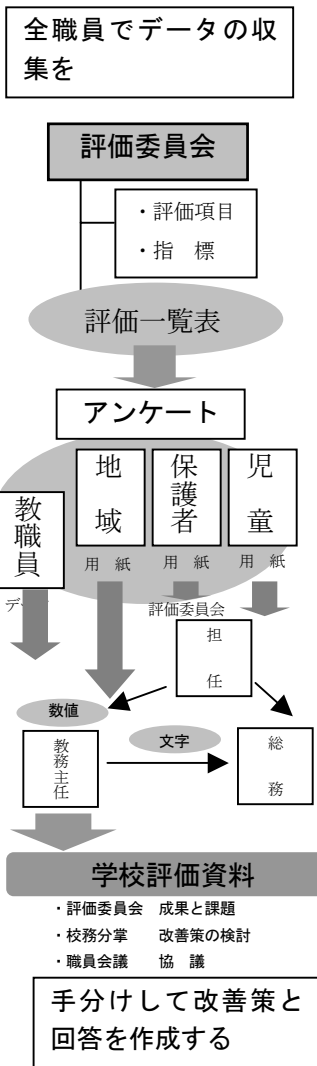
2 学校関係者評価委員会

中間評価、年度末評価ともに学校関係者評価委員会を開き、学校関係者として、評価していただいている。この委員会では、職員会議で検討した自己評価と改善策を記載した評価書を、事前に学校関係者評価委員に考えていただくようお願いし、この委員会で、自己評価と改善策について、評価をいただいている。さらなる改善点について意見をいただいたものを学校関係者評価書にまとめ、公表している。

Ⅲ 学校評価の年間の流れ

	学校（教職員）	児童	保護者	地域	学校関係者評価
4月	職員会議（新年度学校経営）				
5月	学校公開日、運動会				学校公開日 運動会観覧
6月	評価項目、公表方法の決定、 学校公開日、学校説明会				学校公開日 学校説明会参加
7月	評価設問検討				
8月	評価用紙作成、配付	児童評価実施	保護者評価実施		
9月	中間評価の実施、評価結果のまとめ、校務部会（各部学校評価）改善の方向				事前に自己評価と改善策を提示
10月	中間評価公表＜資料配付、ホームページ＞				第1回学校関係者評価委員会
11月	学校公開日、学習発表会			スクールゾーン委員会	学校公開日 学習発表会観覧
12月	学校公開日、年度末評価の実施	児童評価実施	保護者評価実施		学校公開日
1月	評価結果のまとめ 各部評価、改善の方向				
2月	職員会議（改善の方向性の確認） 職員会議（次年度学校経営） 校務部会（次年度計画の策定）				事前に自己評価と改善策を提示
3月	学校評価の公表＜資料配付、ホームページ＞				第2回学校関係者評価委員会

IV 学校評価の方法



学校関係者評価委員会の実際

1 自己評価

(1) 項目の設定

教務主任（評価委員長）が中心となり校長の学校経営の方針と重点を基に評価項目と指標を評価委員会に提示する。委員会の中で項目と指標の検討を行った上で、これを評価者ごとの設問にし、評価項目の一覧表を作成する。

(2) 児童・保護者アンケートの実施

評価項目一覧表を基に各々のアンケート用紙を作成する。児童アンケートは担任が実施、回収する。保護者のアンケートは封をした状態で担任に提出、教務が窓口となって回収する。高学年児童と保護者については自由記入欄を設けている。アンケートはすべて記名を原則とする。

(3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

各アンケートの収集と資料作成の流れは図示しているが、ここで全教職員で手分けしてデータの入力と資料の作成を行っている。

- ・児童アンケート：担任が集計。自由記入欄は総務がテキスト化。
- ・教職員評価：ひな形に個々に直接入力し、オフラインで収集。
- ・保護者アンケート：評価委員会で開封確認後、担任に戻し、各担任がデータ化とテキスト化を行う。校内LANを活用して教務が収集。
- ・地域評価：会議などで来校の際にアンケートを収集。

数値は教務が扱ってグラフ化、テキストは総務が扱って成果と課題にまとめる。左にグラフと分析、右に自由記入欄と回答、改善策を掲載した資料を分担して作成。

(4) 改善策の検討

自由記入と集計グラフを資料として評価委員会を開き、おのこの評価項目に該当する検討課題を各部が分担する。その後分掌ごとに会議を開き、改善策を策定する。改善策は評価委員会を経て職員会議で協議し、学校として改善策を作成する。評価は計画的、効果的に進められているので職員会議は効率よく進めることができる。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

本年度は学校評議員（前PTA会長、現PTA会長、青少年育成会会長）とPTA役員計9名で構成した。事前に資料は提示しており、これに目を通していることを前提に会議は進められるので効率よく評価をしていただけになる。教頭が司会をし、教務主任が説明、総務が記録を担当し、校長が意見をいただく形で会議を進めている。

(2) 学校関係者評価書の作成

学校関係者会議の中で、自己評価と改善策を記載した自己評価書を基にして、評価項目に従って、意見や改善策についての意見をいただき、評価をしていただいた。

後日、評価結果、学校評価員からの意見、改善策を整理し、学校関係者評価書に記載して、学校関係者評価委員長に最終確認をいただくかたちで学校関係者評価書を完成させている。

V 評価結果の公表

信頼を得る公表

1 公表の方法

本校においては、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

- ・学校ホームページ：トップページに「学校評価」を掲載したことをお知らせし、リンクを張って公表冊子の各ページをPDF化したデータを掲載している。



- ・公表冊子：収集したアンケートデータをグラフ化し、自由記入として寄せられた質問については回答とその改善策をつける。これを冊子にして家庭数で配付している。また来校者にも学校の教育活動と取組を知ってもらうために配付している。

2 公表の効果

教職員、児童、保護者・地域が一体となって学校改善に取り組んでいるという意識が高まっていることを感じている。また、自由記入欄に寄せられた保護者の声については誠実に受け止め、ていねいに回答し改善策を打ち出すことにより、学校に対する信頼も厚いものとなってきた。保護者や地域の思いや願いを聞き入れ、保護者・地域、児童とともに開かれた学校を創っていこうとする姿勢を示すことができた。

VI 他地域における学校評価

1 木更津市立請西小学校の学校評価

木更津市では、全市で共通した学校評価システム（「きさらづシステム」）を実施していた。請西小学校では、4月末に、実態の把握をしている。その上で、調査項目の作成・実施、教育計画の修正を行っている。アンケート項目が、具体的であり、学習、生徒指導、体力向上、その他、学校ごとの重点課題の項目、次年度の重点課題、具体的対応策が示されていた。多くの示唆を受けることができた。

2 品川区立日野第三小学校の学校評価

日野第三小学校では、「品川区新評価システム」に沿って学校評価を実施していた。内部評価と学校関係者評価項目の同一化、内部評価項目と校内評価の関連付け、校区学校関係者評価委員会への近隣小中学校管理職の参加、授業参観、学校公開日を生かした小刻みな保護者・地域の評価など先進的な取組であった。評価結果の善し悪しに一喜一憂することなく、全職員協働で改善していくことこそが大切なことであることを改めて実感し、今後の参考になった。

両校への視察を通して分かったことは、学校評価システムの構築においては、地域で共通した評価システムに基づき、どの学校においても共通の観点に沿った評価が行われていたことである。

VII 成果と課題

学校評価を軸に、PDCAのサイクルで、保護者、地域の方々とともに教育活動を改善していく流れができてきた。

学校評価を受けて、すぐ実行できる改善には早急に取り組むことが大切である。そのために、校長、教頭の指導を仰ぎながら、教務主任が中心となり、学校創造部会を有効に活用して、組織の活性化に努めた。特に児童のあいさつの指導では、成果をあげることができた。課題としては、改善策の共通理解を深め、学校創造部会で、改善の進行状況をチェックすることがあげられる。そのためにも、学校教育目標、学校経営の方針と重点に基づいた教育活動を行っていることを忘れてはならないと考える。

保護者アンケートでは、保護者が記入しやすい具体的な項目に絞ることが大切であり、学校任せではなく、共に育てる視点をもつていただくことを意図して実施した。その成果として、児童の家庭生活での実態が明らかになった。

課題としては、日頃から保護者、地域への学校の教育活動の様子の発信に努め、より一層の理解を得ることである。

【参 考 文 献】

- ・「学校評価で学校を変える」 館野健三著 明治図書
- ・「学校評価システムの確立に向けて」 札幌市教育委員会 他

平成19年度中間 外部評価書

札幌市立百合が原小学校

1. 本年度の重点 自ら学び共に高め合う思いやりの心をもつ子供の育成
2. 本年度の経営 (1)子供が安心して楽しい学校生活を送り、満足感や成就感を持つことができる学校を創造する
(2)豊かな感性と情操を育む教育環境づくりと開かれた学校を創る
(3)組織としての教職員の連携と協働の意識を高める
3. 外部評価 (A: 強く思う B: そう思う C: あまり思わない D: 全く思わない)

札幌市立百合が原小学校 外部評価委員会

委員長 ○○ ○○ 印

学校課題	細目	評価項目	内部評価		評価	外部評価	
			後期に向けて 改善の方策について	評定		評定について(成果○・課題等■)	
特色ある教育課程の編成・実施と評価	学力	1. 学力の向上	B	●学力テストで、全校の学力水準が明確になったことを受けて、以下の改善策に取り組む。	B	■家庭との連携を深めるために、学級の方針を広報することが大切である。「学校まかせ」では、いけない。保護者も関心をもって、学校でのやり方に協力していく必要がある。 ■家庭学習は、勉強嫌いににならない配慮が必要である。 ■自立心を育てるために時間がかかっても自分のことは自分でやるというしつけが必要である。家庭学習の土台である。 ○さわやかタイム、ゆりシステムは、システムとしてよい。より工夫をして内容を考え取り組んでほしい。長い目で見て、期待している。 ■メール全盛の時代であるからこそ書く指導が大切である。手紙文も苦手であるようだ。習った漢字を正しく使うことや読書感想文を書いて、読んで書くという力をつけることもさらに取り入れ指導してほしい。 ○運動会では、取り組んだ練習の成果が良く出ていた。保護者の方から賞賛を受けた。めあてに向かって子どもの育ちが見られたので、後期も継続した指導をしてほしい。	
	さわやかタイム	2. 「さわやかタイム」の指導の充実	B	①学力テストで身に付いていない学習内容について、学年で共通して取り組む。 ②家庭との連携を進める。宿題や課題の取組みへの理解と協力を得るよう学校、学年、学級から働きかける。 ③さわやかタイム、ゆりシステムについては、職員間の共通理解を図り、さらなる有効活用を図る。			
	歌声の時間	3. 心を育てる歌声の時間	B	●総合の新しいカリキュラムを現在作成している。			
	総合的な学習の時間	4. 力を高める総合的な学習の時間(3年生以上)	B	●3年生以上のフリープランは、現在総合的な学習の時間に位置付けている。全員が休み前に、課題を決め、担任が助言・指導している。休み中、十分な時間を使って、調査、体験、実験をして、まとめるという学習は、生きて働く力になると考えている。今後学級での事前指導の在り方など工夫する。			
	情報教育	5. インターネットなどの情報教育の実践	B	●学校行事は、取組みも良く、成果が表れている。			
	学校行事	6. 集団の自覚と規律を育てる学校行事(運動会)	A				
学年・学級経営の充実と協働体制による指導の充実	学年・学級経営	7. 共感的な児童理解による指導の充実	B	●学年で指導内容、方法など、さらに共通理解を深め、学年全体で児童を育てよう後期も努力していく。 ●開校以来、職員一丸になっての指導は、百合が原小で大切にしていることの一つである。今後も、教室環境がオープンであることのよさを生かし、学年の協働体制とともにT・T、少人数指導、ゆりシステムの取組みで、様々な場面で複数の目で子ども達を指導していく。	B	○オープンによさである開放的なスペースを活用した学習活動や交流活動などに取り組むなど、そのよさを生かして行ってほしい。 ■今後、音に対する対策として、学年としての打ち合わせを密にし授業内容を調整してほしい。また、参観日は必要に応じて、壁をつけるなど弾力的な活用が望まれる。	
	協働体制	8. 協働の意識での校務の遂行	B	●養護教諭、事務職員、栄養職員、調理員、用務員、業務員など全ての教職員で子ども達にかかわってきている。子ども達一人一人を見守りながら今後も指導を全職員で行う。			
豊かな人間性を育む教育の充実	ふれあい活動	9. 相手を思いやる心と協力する力を育て縦割り活動の工夫・充実	C	●ふれあい活動は、人間形成される小学校に不可欠な活動である。ふれあい活動を工夫改善しながら今後も進めていく。フラワータイムでは、協力して水やりをする姿が見られた。同じフロアの学年が交流をするブロックランチを実践中である。児童にふれあいに参加する事前指導をしっかり行い、活動の意味を理解させ、相手の思いやる心を育てるよう育てていく。	B	■ふれあい活動は、大事である。後期も改善案にしたがい努力してほしい。高学年の育ちが大切である。もっと思いやりの心を育ててくなくてはならない。今後も継続して取り組むよう期待している。 ○地域であいさつをする子が広がってきた。また、今後家庭・地域と連携を図り、指導していくことが大事である。	
		10. 挨拶の習慣	B				
		11. 安全指導の徹底	B	●委員会活動では、話し合いがもとになる。今後、学級活動での話し合い活動の充実を図っていく。 ●あいさつは、その意義をしっかりと児童に理解させ、児童会活動とも連携し、指導の充実を図る。家庭の協力も求めていく。 ●安全指導は、全職員で後期も継続して指導していく。			
学ぶ力を育む授業の工夫	学習の進め方	12. わかりやすい授業	B	●学習の進め方については、保護者の方がおおむね肯定的に捉えていた。後期は、T・T・少人数指導での充実を図る。学習の聞く力・話す力を重点的に育てていく。	B	■わかりやすい授業、楽しい授業をこれからも大事にしてほしい。わからない、楽しくないと答えている子もいるので、具体的な手立てをしっかりとってほしい。	
		13. 楽しい授業への参加	B	●家庭学習の習慣は呼びかけているが、まだまだである。家庭の協力が不可欠であり、連携を図っていく。			
		14. わかる楽しさ、喜びを味わわせる多様な学習指導法の工夫	B				
子供が自ら活動を生み出す教育環境の整備・充実と多面的な活用	環境整備	15. 教室の環境掲示	B	●環境整備については、ほぼよいとの評価を得た。後期は、さらに充実していきたい。 ●児童が見やすい掲示になるように工夫が必要である。後期さらに改善に努める。	B	○掲示は大変よい。外部に向けての教育活動の様子がよく伝わる。 ■今後高学年の子ども達に興味をもてる環境をつくるために、子ども達自身に考えさせる工夫も必要である。	
家庭や地域社会との連携強化と開かれた学校づくり	参観懇談	16. 参観授業と懇談内容を工夫・充実	A	●参観懇談の充実に向けて後期も努力したい。	A	○参観懇談会は、工夫・充実が見られる。 ○お便りを通して、学校や学級の様子がよくわかる。 ■お便りについては、学年、学級によってばらつきがある。学級の様子を伝えられるように改善を望む。 ■保護者同士の私語が多い。保護者にも私語を慎むようマナー向上の呼びかけが必要である。	
	学校からの発信	17. 保護者の理解と協力を得るお便りの発信	A	●お便りについては、後期も継続していく。			
児童の安全確保	危機管理	18. 児童の安全確保	A	●安全指導では、日々繰り返し指導すると共に自分の身は自分で守ることをしっかりと意識付ける。 ●朝、放課後の交通安全指導を継続していく。 ●保護者の協力も更に呼びかける。	A	○安全指導については、熱心に取り組んでいる。 ■子ども達に地域で見守られていることを全校朝会などで紹介して、安全意識を高めてほしい。 ■保護者の意識も高め、安全確保に努めてほしい。	